地域医療支援病院の承認申請にあたっての考え方

東京慈恵会医科大学附属第三病院
院 長　古 田　希

東京慈恵会医科大学附属第三病院は1950年東京慈恵会医科大学3番目の附属病院として開設され、1970年に現在の9階建ての本館病棟が建築されました。以来、森田療法棟、新手術棟、新医局棟など増改築を重ね、2021年4月現在、一般病床534床、結核27床、精神20床、総床581床を有する大学附属病院として、がんなど各種疾患に対する専門医療を提供しています。一般診療部門（診療科）は総合診療部を始め内科系、外科系で総計21部門、他に、放射線部、内視鏡部、感染制御部など9診療部門が診療科の中心です。

当院は狛江市、調布市、および近接する世田谷区にまたがる地域の急性期病院であり、24時間体制の二次救急医療機関です。この地域には高齢で複数の疾患を重ねもっている患者も多く、専門診療科による縦割りの診療ではなく、複数科による横の連携に力を入れています。その中心は総合診療内科で、当院では総合診療研修センターを設置して総合診療医の育成に力を入れています。、また、狛江市・調布市医師会の協力を得て、小児の初期救急診療を実施しています。診療体制は、狛江・調布医師会所属の医師及び当院の医師が参加し、慈恵医大第三病院内「狛江・調布小児初期救急平日準夜間診察室」で診療にあたっています。

東京都がん診療拠点病院でもあり、外来化学療法室、緩和ケアチーム、がん相談支援室などを含めた包括的なチーム医療でがん診療を推進しています。外科領域では、手術件数が年間約6,000件を超え、高次元医用画像工学研究所と連携したハイテクナビゲーション手術室を設置しており、より安全、確実に手術を行なうことが可能です。

また、東京都CCUネットワークに参画し、東京消防庁、東京都医師会ならびに東京都福祉保健局と連携し、心疾患患者の迅速な治療にあたっています。東京都地域連携型認知症疾患医療センターとして、高齢者の認知症疾患への対応も強化しています。

「病気を診ずして 病人を診よ」という慈恵大学の建学の精神に則り、患者のための多面的なサポート体制を構築しており、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム（NST）、褥瘡対策チーム、呼吸療法サポートチーム（RST）、などの他職種からなるチーム医療体制が充実しています。当院のチーム医療は、医師だけがリーダーというチームではなく、看護師、薬剤師、放射線科、リハビリテーション科などコメディカルのスタッフの中心に患者、その家族がいて、チーム全体で医療を提供する体制です。

当院では、患者さんが住み慣れた地域で健康な生活を送り、病気になったときには速やかに適切な治療を受けられるよう努力しています。また、患者さんやご家族が安心して治療を受け退院後の生活に戻ることができるように、「総合医療支援センター」を開設しています。センターには、医師、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）、事務員といった多職種が在籍しており、「医療連携部門」、「医療ソーシャルワーカー部門」、「在宅・入退院支援部門」の3部門で構成されていま

す。各部門はともに連携を図りながら、外来の受診の支援、入院から退院、さらに退院後の支援を行っています。

また、どの部門も患者さんと地域の医療機関や施設とを結ぶ役割を持ち、勉強会や講習会を定期的に開催するとともに、近隣の医師会や医療機関が開催する勉強会にも積極的に参加しています。特に医療連携部門で開催する医療連携フォーラムには、地域の開業医の ほか、訪問看護師やケアマネ―ジャー、ヘルパー、行政の健康福祉関係の方たちにも参加していただき、当院の考えや連携の提案、総合討論などを行っています。現在、「2人主治医制」、「東京慈恵会医科大学附属第三病院地域連携システム」を導入し、開業医と専門的な検査や治療を行う病院が連携し、共同で継続的な治療を行う体制を構築しています。

感染症医療としては、感染制御チーム（ICT）を設け院内感染関連問題に関する調査・分析・指導・研修等を行い、個々人の知識・技術の向上に加えて、安全が確保できる良好なチームワークとシステムの構築を行っています。また、感染対策に関する地域連携として、5 施設（北多摩病院、多摩川病院、調布東山病院、榊原記念病院、調布病院）と感染対策地域連携カンファレンスや、本学附属 4 病院での相互ラウンドを定期的に実施しています。

新型コロナウイルス感染症対策としては、厚生労働省や東京都等からの要請に基づき、東京都新型コロナウイルス感染症入院重点医療機関の認定を受け診療を行っています。その結果、2021 年 9 月 30 日時点で延べ 5,295 名のコロナ陽性入院患者を受け入れました。コロナワクチン接種においては、地域医師会と連携し、近隣医療従事者等への接種を行いました。また、味の素スタジアムに設置された酸素・医療提供ステーションへ当院医師を派遣し、搬送された患者のトリアージや抗体カクテル療法を行っています。あわせて、同ステーションで急変した患者を受け入れる後方支援病院としても協力しています。

当院は、狛江市・調布市の災害医療の中心として東京都災害拠点病院に指定されております。その使命を果たすために、毎年狛江市、調布市、両市医師会、歯科医師会、薬剤師会等と協同して、災害時の緊急医療救護所設置、院内での災害対策本部立ち上げ、多数傷病者のトリアージ、エリアごとの治療、院内院外との通信等の実践的な総合訓練を実施し、有事に備えております。そして訓練後に関係機関と協議し、課題を抽出して当院 BCP に反映させ他制の充実を図っています。

また、行政や近隣機関との間に、①災害時対応ホットラインの運用（3 者間）、②災害活動に関する相互応援協定（5 者間）、③院内の井戸の使用に関する協定（3 者間）、④緊急医療救護所医薬品等備蓄庫の使用貸借に関する覚書（5 者間）、⑤大規模災害発生時の道路啓開に関する協定（2 者間）等、地域と連携した各種協定を締結し、各種訓練を通じ教職員一人一人が理解を深め、地域防災力の向上を推進しています。

今後、2023 年秋には新病院の建設に着工、2025 年には竣工の予定です。単に建物を新設するにとどめず、そのコンセプトもリニューアルし、地域の医療ニーズに対応し、将来も発展可能なフレキシビリティにあふれた病院にしたいと考えています。高度急性期、急性期から回復期、地域包括ケアへと切れ目のない質の高い医療サービスを構築し、縦割りの診療ではなく、患者・患者家

族の持つ問題点を包括的に解決するシームレスな医療を目指して様々な新規事業・改革を予定しております。また、健康推進センターを設立し、住民や患者さんに対して未病・一次予防・二次予防への対策を講じます。予防活動を通じて収集したヘルスリサーチの結果を市民に還元し、市民の健康を増進することで、住み慣れた地域で市民が安心して暮らせるよう地域共生社会を創造します。

以上より、地域医療支援病院として、近隣地区全体の地域医療の更なる充実に貢献したく、承認申請させていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。